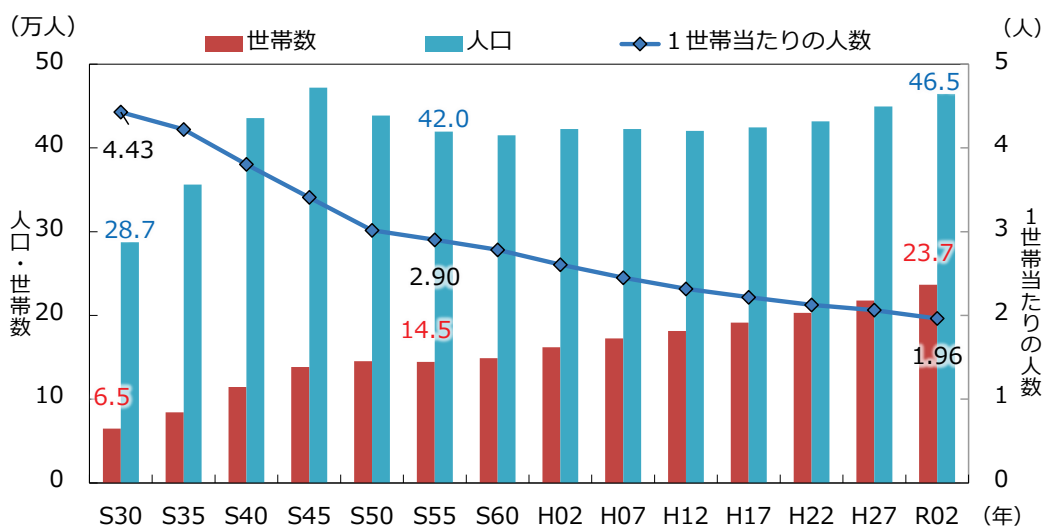


(2) 人口・世帯数

住民基本台帳によると、2020（令和2）年1月1日時点で葛飾区の人口は464,550人、世帯数は236,600世帯となっています。人口は1980（昭和55）年頃から、42万人前後で推移してきましたが、近年は微増傾向にあります。将来的には、2025（令和7）年以降に減少局面を迎え、徐々に人口減少が進む見通しです。

世帯数は一貫して増加傾向にあり、1980（昭和55）年比で1.64倍（92,026世帯増）となっています。人口の増加よりも世帯数の増加が上回っているため、1世帯当たりの人口は減少傾向にあり、2020（令和2）年は1.96人まで減少していることから、単身世帯が増加している状況であることがうかがえます。



出典：葛飾区統計書より作成

図 2.2 住民基本台帳による人口・世帯数の推移（各年1月1日時点）

(3) 土地利用

2020（令和2）年現在の地目別土地面積（課税地）を見ると、95%が宅地（工業地・商業地含む。）であり、残りを農地と軌道用地がほぼ二分しています。

都市計画地域の指定状況は、住居系用途が51.2%と大きな割合を占めています。

表 2-1 地目別土地面積（課税地）の内訳（2020（令和2）年1月1日時点）

宅地	農地	軌道用地	雑種地等
16,589 千 m ²	319 千 m ²	474 千 m ²	27 千 m ²
(95.3%)	(1.8%)	(2.7%)	(0.2%)

出典：葛飾区統計書より作成

注1：本表は固定資産税の課税対象となる評価面積である。

注2：雑種地とは、宅地、田畑、山林、原野、池沼、軌道用地等いずれにも属さない土地である。

注3：宅地とは、商業地、工業地、住宅地、その他が含まれる。

(4) 交通

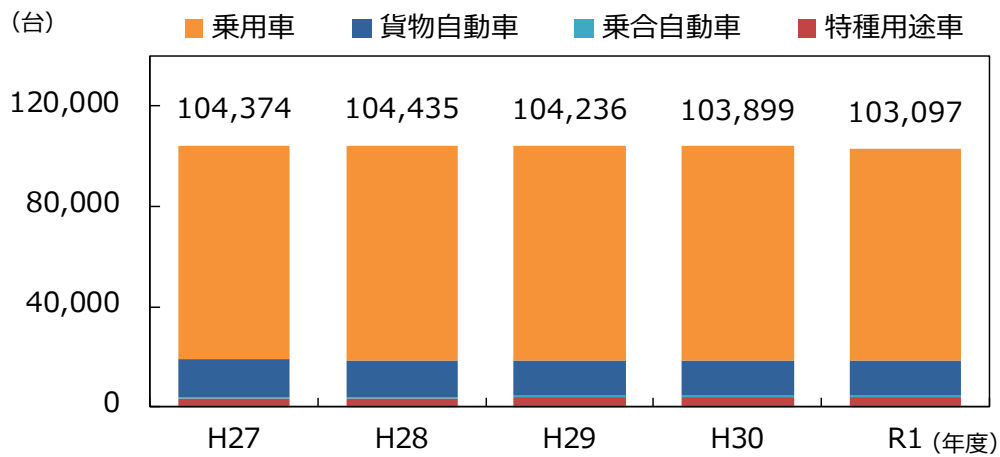
主要な道路交通は、南西から北東に走る水戸街道（国道6号）と蔵前橋通り、そして、これらと直交する環状7号線、平和橋通りなどの主要幹線道路によって、道路網の骨格が形成されています。

2019（令和元）年度末時点の自動車登録台数は103,097台であり、近年は、微減傾向にあります。

鉄道路線は、東西方向にJR常磐線、JR総武線、京成線、北総線が運行されています。

2020（令和2）年度の区内鉄道（JR、京成線、北総線）の一日当たり乗車人員は、新小岩駅が59,321人で最も多く、次いで金町駅、亀有駅の順に多い状況です。

区内のバス路線網は、鉄道が不足している南北交通を補完する形で発展してきました。バス交通は、区民生活を支える基盤として重要であり、超高齢社会の進展等により、その役割は重要度を増しています。



出典：東京都統計年鑑より作成

図 2.3 自動車登録台数の推移（各年度末）

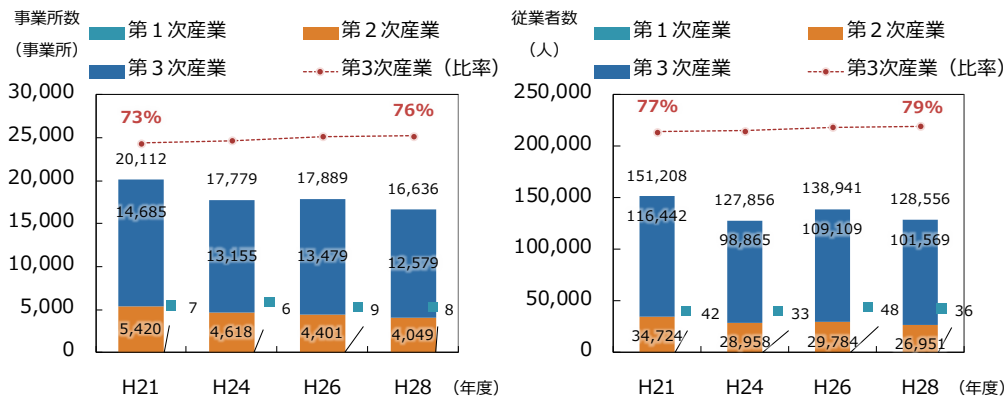
(5) 産業

区内の事業所数、従業者数は、減少傾向にあり、2016（平成 28）年時点で 16,636 事業所、産業従業者数 128,556 人となっています。従業者数の内訳を見ると、第3次産業が 79%と大半を占めています。

2018（平成 30）年度の農地面積は 32.7ha となります。2015（平成 27）年度時点で区の農家数、農家人口、ともに 23 区内で 5 番目の規模に上りますが、減少傾向にあります。

2015（平成 27）年工業統計調査によると、区内の工場数は 2,131 となっており、特に堀切、四つ木、東四つ木地域に工場が集積し、特別区で 3 番目の工場数となっています。工業関連の従業者数は 11,867 人で特別区のうち 6 番目となっています。そのうち従業者 4 人未満の比較的小規模な工場が 6 割を占めています。従業者数、製造品出荷額ともに減少傾向にあります。

卸売、小売業の商店数及び年間商品販売額は減少傾向にありましたが、2016（平成 28）年度は増加に転じています。



出典：葛飾区統計書より作成

図 2.4 事業所及び従業者数の推移